

笑顔でおいでよ!



西南小の風

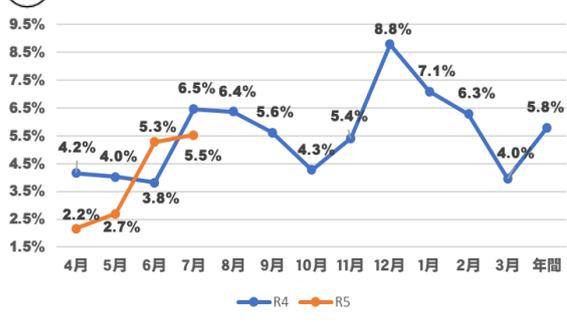
だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい

令和5年8月22日
第17号

① R4夏休み明けの欠席数 (単位:人)



② 欠席率 (病欠・事故欠・出席停止の割合)



来週から学校が再開します。八月十九日(土)には、早朝から大勢の保護者と児童のみなさんに来ていただき、敷地内がきれいさっぱりになりました。本当に助かりました。ありがとうございます。職員室を覗けば、半ば休みに飽きた風情の職員が前期後半の始まりを今か今かと待ちながら、学校再開の準備をしています。

さて、今ぐらいいから九月一日を過ぎるまでは、夏休み明けの「登校渋り」や「不登校」「子どもの自殺」など大人を不安にさせる言葉を見聞きすることが増えてくるのではないのでしょうか。九月一日の自殺率が他の日の二倍以上だったという政府の調査結果が公表されてから、これは周知の事実となっています。近年は八月終わりに始まる学校が増えたため数値としては分散されているかもしれませんが、自殺が増える理由が想像しやすいために親として、学校職員として不安を感じることは当然のことでしょう。

では、実際そのところ本校はどうなのかを調べてみました。左の①は、昨年度の夏休み明けから六日間の欠席者数です。本校の夏休み明けは八月二十六日でした。一番欠席数が多いことは多いのですが、在籍八七二人に対しての欠席数ですので、夏休み明け初日が特に多いわけではありません。それに、どの日も新型コロナウイルス関連の出席停止が四〇人前後いました。

また、②は年間の欠席率です。こちらには新型コロナウイルス関連等の出席停止も含めています。こちらにも八月が特に多い印象はありません。

とはいえ、学校再開に不安を感じている子どもは確実にいるでしょうし、そんな我が子を心配しておられる保護者の方もおられるでしょう。ネットを見れば、そこにはいろいろなことが書かれてあり、必ずしも不安や心配が和らぐ内容ばかりではありません。

八月十五日は終戦記念日、でもありますが、「しあわせハッピーDAY (ことは教育の日)」でした。スクリーンコントロール (スマホやゲーム、テレビなど、スクリーンを見る時間をコントロール) をして、読書や家族との会話等を楽しむ日でした。このスクリーンコントロールは、中学生になるととても大きな問題となります。最近の傾向として、中学生になると不登校がグッと増えます。その大きな要因の一つは、スクリーンコントロールができないことではないかと思っています。もちろん他にも複数の要因があるわけですが、私が個人的に感じている印象です。どんなに本人に働きかけようが、保護者と面談して今後の方向性や取組を決めようが、SCやSSWに繋げようが、スマホやゲームへの依存はそれら不登校だけでなく無気力な生活を改善するための取組を妨げます。前号に記した「夏休みの暮らしアンケート」では、スマホ・ゲーム一時間以内が「ほぼできていない」との回答割合が三七%でした。二〇〇人に満たない回答数でしたが、全児童について回答していただいても増えこそすれ、減ることはないでしょう。

お子さんが不安を感じているのならば、やはり話を聞いてあげることしかないと考えます。子どもは話さないかもしれませんが、でも声をかけることはできます。「ウザい」と思われようが、言われようがかまいません。「しあわせウツザイDAY」上です。

また、お子さんに関するご心配は、学校にも遠慮なくご相談ください。一人で、親だけで、家族だけで抱え込むのはやめましょう。みんなで抱えましょう。

二八日の学校再開には元気に登校して欲しいです。宿題が終わっていない子もいるかもしれませんが、それでも元気に、図太く、あっけらかんと登校して欲しいですね。笑顔で送り出してください。担任がかします。